

9月下旬まき施設コマツナの業務用有望品種の選定

榮森弘己・小坂井宏輔
(江戸川分場)

【要約】9月下旬まき施設コマツナの業務用品種としては、収量性が高く、葉厚が良好な「里のなつ」、収量性・生育の揃い・極立性で作業性が良好、在圃性が高い「必閃」が有望である。

【目的】

コマツナは都内における生産量が野菜の中で最も多く、基幹作物である。また、コマツナの品種は多岐にわたり、生産現場では品種の業務用特性の把握が困難である。そこで本試験では9月下旬まき業務用コマツナの品種特性を明らかにし、有望品種を選定する。

【方法】

9品種（表2）を供試し、2025年9月26日に近紫外線除去フィルムを展張したパイプハウスに播種した。栽植距離は畝幅70cm、条間14cmの4条、株間8cmとした。施肥は全量基肥で、N-P₂O₅-K₂Oを14-14-14kg/10a施用した。1区あたり2.1m²（約146株）の2反復とした。パイプハウスのサイド及び出入口妻面は、防虫ネットを展張し、終日開放した。灌水は9月26日（播種時）、10月3日、10日、29日の計4回行い、収穫調査は播種45日後である11月10日に1区10株2反復で行った。また収穫調査後、無灌水で放置した植栽株の在圃性について、播種70日後の12月5日に葉の黄化などの有無を、目視で調査した。これらの調査を基に業務用コマツナで求められる品種特性の、収量性、揃い、立性、葉の厚さなどの観点から、有望品種の選定を行った。

【成果の概要】

1. 収穫調査までの期間において、生育前半は平年に比べてかなり気温が高く、日照時間も長かった。しかし生育後半の気温は平年より低く推移し、日照時間も短かった（表1）。
2. 収量性について、下葉調整後の調整重が90g前後以上に重い品種は「優翠、必閃、里のなつ」であった。またこれら3品種は調整重/草丈の値が高く、株張りが良い品種であった。また、草丈の変動係数が0.03程度と低く、生育の揃いが良い品種は「必閃、菜々子、菜々美」であった（表2）。
3. 草姿が極立性で作業性が良好と判断される品種は「必閃」であった。
4. 商品性について、収量性が上位の品種において、葉厚が0.36mmで比較的厚い品種は「里のなつ」であった。
5. 在圃性について、播種70日後においても圃場で葉の黄化等みられない品種は「菜々子、必閃、さくらぎ」であった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 作型や栽培年によって、生育や品質が異なることがあるので、留意する。

表1 栽培期間中の気温，日照時間，降水量の推移

月	半旬	平均気温(°C)						日照時間(hr)		降水量(mm)	
		日平均		日最高		日最低					
		本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年比(%)	本年	平年比(%)
9	6	25.2	+2.6	29.4	+3.1	22.0	+2.2	29	142	0	0
	1	22.6	+0.2	26.6	+0.6	19.6	+0.2	20	82	7	18
	2	22.4	+2.4	27.0	+3.5	19.5	+2.4	16	44	0	0
10	3	19.1	-0.4	21.8	-1.0	16.5	-0.2	0	0	9	116
	4	19.4	+1.5	22.8	+1.4	16.1	+1.1	17	66	10	88
	5	14.1	-3.0	16.2	-4.3	12.4	-1.6	2	9	14	139
	6	15.8	-0.8	19.0	-1.6	13.1	-0.1	17	57	38	374
11	1	14.9	-1.2	18.9	-1.4	10.9	-1.5	25	77	1	9

気象庁（江戸川臨海地点）のデータを使用。平年値は2015～2024年の10年間の平均値を使用した。

表2 9月下旬まき施設コマツナの業務用としての品種特性

No.	品種名	種苗会社 ^a	地上部重		草丈		調整重(g)	調整重/草丈	葉数(枚)	葉色(SPAD)	葉厚(mm)	カッピング程度 ^b	中肋基幅(mm)	草姿 ^c	播種70日後葉の黄化の有無
			(g)	c. v.	(cm)	c. v.									
1	優翠	ワ	111.7	0.21	37.5	0.06	100.3	2.7	9.3	46.6	0.27	3.9	17.8	中	有
2	いなせ菜	カ	79.9	0.36	39.4	0.07	71.2	1.8	7.5	44.9	0.28	3.8	17.7	中	有
3	里のなつ	ム	96.7	0.22	34.5	0.08	89.6	2.6	8.6	52.6	0.36	2.0	17.5	中	有
4	菜々子	タ	89.3	0.24	39.1	0.04	82.2	2.1	7.9	49.9	0.30	2.7	17.0	中	無
5	菜々美	タ	63.6	0.16	33.3	0.04	57.5	1.7	7.8	47.8	0.36	2.8	15.8	立	有
6	必閃	カ	103.9	0.28	33.5	0.03	96.4	2.9	9.3	47.0	0.31	3.1	20.4	極立	無
7	夏楽天	タ	95.3	0.40	43.4	0.10	85.2	2.0	7.3	45.4	0.33	3.8	18.7	中	有
8	真夏の四番打者	ト	86.5	0.18	32.6	0.06	77.3	2.4	9.1	51.5	0.37	2.2	18.4	立	有
9	さくらぎ	サ	92.8	0.35	37.9	0.07	85.3	2.3	7.8	51.8	0.30	2.8	20.8	立	無

各項目の平均値およびc. v. を算出した。

a) カ(カネコ種苗)，ム(武蔵野種苗園)，サ(サカタのタネ)，ト(トキタ種苗)，ワ(渡辺農事)，タ(タキイ種苗)

b) カッピング：[Σ(指数×指数別株数) / 調査株数] 指数：1(弱)，2(やや弱)，3(中)，4(やや強)，5(強)

c) 草姿：極立～立～中～やや開～開